

短歌 全18首

浮舟の恋ものがたり語りつ、木洩日の下さわらびの道
 デパートは跡形もなく消え去って更地に浮かぶ少年の日々
 芋の葉に溜りし露を触れてみる真珠のごとく光りて落つる
 娘から父の日祝い金届く感涙にして惜しみ使えず
 『喜の字すぎ老練した』とおっしゃるがまだまだお元氣道を説く齊藤大仙先生
 喰ふだけで終はす訳にはゆかぬ味古里に伝はる「すまんじゅう」なり
 吾が世代生きてちひろ女の絵が語る花の生命の短く生きて
 趨り雨野辺の送りに虹の立つのはりゆくらむ垂乳根の母
 雨あがり初蟬の声高らかに畑の側ある古墳に響く
 長梅雨の晴れて嬉しやキャンプ場頑張るゾーと帳簿を開く
 前向きに確りと生活つもありでも時には募る侘しさもあり
 小さな手幼は合わせ何祈る母の真似してじっと動かず
 ぐずぐずの板のやうなる桃の木に緑の葉出でて命確かに
 嫁ぐ日の衣装を姑と選びたる思い出の矢尾更地になりぬ
 締め切りの迫りて苦吟する夜ふけ時計の進む速度がちがふ
 梅雨明けを待ちいし如く茅鯛は夜明けの山に一頻り鳴く
 残酷な放火事件の京アニメ多数死傷者ニュースに気重
 戦国の軍師官兵衛赤合子兜かぶって写真とる夏

皆野 萩原 初恵
 皆野 打木 昭廣
 皆野 藤原マキ子
 皆野 関根 助市
 皆野 石原 達也
 皆野 引間 万亀
 皆野 根岸 詩子
 上日野沢 丸山 久子
 皆野 村田ハツ代
 皆野 戸塚喜久雄
 皆野 新井 叶子
 三沢 新井 節子
 三沢 新井 民子
 三沢 眞下 杏子
 三沢 鈴木 貞恵
 下日野沢 浅見 豊子
 上日野沢 四方田利男
 皆野中一年 太幡琉美花

榎本順江選 投稿数11句

故郷に恩師健やか生身魂いせみたま
 (評)季語生身魂(盆の間に、生存している父母やお世話になった人に、子供や目下の者が贈物をしたり御馳走をして持て成す儀式)故郷に健在の恩師。御高齢かと察しられますが、未だ教え子に慕われ生身魂の儀式に与る幸、お元氣ですと交流が続きますように。二句目、兜太先生の太く力強い文字の俳句が書かれた団扇。やさしく心地良い風の中に、気取らない笑顔の先生がいる。しみじみ先生を偲んでいる作者。三句目、親燕に見守られ上手く飛べるようになった子燕。喘ぎながら来るSLに飛ぶ姿を見せたいと待っている。絵本の様な山の駅の風景。
 太字なる兜太の団扇風やさし
 三沢 新井 民子
 梅雨明けぬ草と猛暑を置き去りに
 三沢 眞下 杏子
 山の駅SL待つてる燕の子
 国神 鈴木 正文
 青柿や枝を屈めて実の育つ
 皆野 萩原 初恵
 部活の子立ち漕ぎ帰る炎天下
 下田野 新井 節子
 夏祭り都会に小さき神楽殿
 上日野沢 四方田利男
 順調に作業三日め梅を干す
 皆野 引間 千鶴
 魚偏の字の読み難し涼み台
 三沢 新井 叶子
 炎天下背すじ伸ばして姫路城
 皆野中一年 太幡琉美花
 万緑や苦しき事も小さくす
 三沢 鈴木 貞恵

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記して
 みらい創造課までお寄せください。
3日必着
 1人1句、1首に限ります。

1歳になる赤ちゃんを募集しています



ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までに、みらい創造課窓口(写真をご持参ください)または、町ホームページからお申し込みください。

10月号の締め切りは、9月10日(火)まで。
 問合せ みらい創造課 ☎26-7334

今月の題字
 皆野小5年
 小林 然人ぜんとさん

児童の見守り放送
 三沢小6年
 若林 龍りゅうさん


